

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・**最終** )

仁方中学校区 校番 1 学校名 仁方中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	中期経営目標を設定してから3年目、知・徳・体とバランスよく育成するため適切に目標、指標が設定されている。 生徒が向上心を持てるよう、自己肯定感と集団適応感が向上するように目標設定できている。
目標達成のための方策の適切さ	A	昨年度の結果分析を反映させ、コグトレ等の取組を継続しながら、新しい方策も組み込んでの目標設定がなされており、ICTを活用しながら基礎学力の向上等目標達成に取り組まれている。新しい入試制度に合わせた自己表現力の向上に力を入れている。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	根拠データ等をもとに結果の分析が十分になされ、中間評価の今後の改善策を踏まえた上で、今回の今後の改善策を導くための課題が明確・詳細に導き出されている。 成果が上がった項目もあれば、成果が上がらなかった項目も見られるが、自己評価や分析は適切である。
今後の改善策(案)の適切さ	A	結果と分析を受けて、来年度につながる改善策が示されている。
その他		校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の達成に向け、着実な学校経営がされている。「学校楽しーと」の活用や「コグトレ」による基礎学力の定着などの先進的取組を調査・研究し、計画的に実施されており、組織として教育活動に取り組む体制が整えられている。 校内適応指導教室の運営が共通認識のもとより良く活用できるように期待している。外部講師、学校司書、保護者等をまきこんで、生徒の学力、社会性、人間性の向上に尽力していただきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○AI型デジタルドリル「Qubena」の活用による基礎学力の定着</li> <li>○自己表現活動の充実と「書く活動」に組織的に取り組む。</li> <li>○図書だより等読書活動の充実を図る。</li> <li>○生徒会活動の活性化</li> <li>○学校行事や生徒会活動を通して自律的縦割り集団活動や自己表現活動の充実を図る。</li> <li>○「呉チャレンジマッチスタジアム」で目標設定を行い、主体的に体力向上に取り組むようにする。</li> <li>○校内適応指導教室の運営を行い、生徒の「居場所づくり」や「学習活動の支援」を進める。</li> </ul>
--------------------	---